

# **FDD-DRIVE SWAPPER**

# **FDD-DRIVE SWAPPER+**

## **X1G 専用セット**

## **簡易説明書**

～ X1G ～

**版数 1.01**

## 改訂履歴

版数	改訂日付	改訂内容
1.00	2019/5/5	初版作成
1.01	2019/5/18	「7 取り付け方法－手順 5」 ・フラットケーブルの 1 番ピンの説明を追記

## 目次

1. はじめに.....	4
2. 特徴・用途.....	4
3. セット内容.....	5
4. お願い.....	6
5. 適合機種.....	6
6. その他.....	7
7. 取り付け方法.....	8

## 1. はじめに

X1 シリーズ (X1/X1turbo/X1turboZ) 用 FDD-DRIVE SWAPPER (以下 FDS と呼ぶ) は、X1 シリーズの起動ドライブを、内蔵 FDD と外部 FDD のどちらにするかを切替えることができるようにする基板です。

本基板の 34pin コネクタに接続した FDX68 や HxC などの FDD エミュレータを使用してバックアップイメージから起動したり、内蔵 FDD に挿入したフロッピーディスクから起動したりすることが出来ます。起動ドライブの切り替えは、本基板(FDS)のトグルスイッチで簡単に出来ます。

さらに機能をプラスした **FDD-DRIVE SWAPPER+ (FDS+)** も用意しています。

こちらは、FDS の機能に加えて、モード切り替えスイッチでコントローラーモードに切り替えると、FDX68 と内蔵ドライブが直結した状態となり、FDX68 の機能により、内蔵 FDD に挿入したフロッピーディスクをバックアップしたり、リストアしたりすることが出来ます。

※全ての X1 シリーズに対応しているわけではありません。本書に記載した「**適合機種**」以外の X1、および、FDD エミュレータでの動作については、自己責任でお願い致します。

※**製造ロットによっては、下記の部品について材質や見た目に違いがあります。**

ご理解頂いた上で、ご購入の検討をお願い致します。

・34 芯フラットケーブル

**本書は、X1G 専用セットについて記述いたします。**

## 2. 特徴・用途

以下のような特徴があります。

- 起動ドライブを、内蔵 FDD と拡張 FDD(FDD エミュレータ等)で切替え可能。
- PC ケースを閉じた状態にできるため、見た目がスッキリ、場所も取らない。
- 拡張 FDD との接続を、34pinFDD コネクタ化。(ケーブルの調達、製作が容易)
- FDX68 のコントローラーモードに対応。(FDS+のみ)

次のような用途で使用するのに便利です。

- 普段は内蔵 FDD から起動して、たまに拡張 FDD(エミュレータなど)からも起動したい。または、その逆。
- 同時に 4 ドライブ使いたい。(X1turboZⅢ など 2 ドライブまでの機種もあります)

### 3. セット内容

No.	名称	イメージ	個数
1	FDS 基板	<p>&lt;FDD-DRIVE SWAPPER の場合&gt;</p>  <p>&lt;FDD-DRIVE SWAPPER+の場合&gt;</p> 	1
2	FDS - 内蔵 FDD 間 フラットケーブル(*1) (約 50cm)		1
3	X1 本体 - FDS 間フラットケー ブル(*1) (約 30cm)		1
4	34PIN エッジネクタ基板		1

5	ジャンパー基板 DRIVE SELECT 用		1
6	ジャンパーピン		4
7	FDS – FDD 間フラットケーブル (*2) (約 70cm)		1

(\*1) フル結線

(\*2) フル結線 (FDX68 などの外付け FDD との接続に使用)

## 4. お願い

頒布するすべての基板について、手持ちの PC にて動作確認は行っていますが、古い PC に取り付ける基板であり、ご購入様にて取り付け等を行なって頂く点から、使用は自己責任でお願い致します。

## 5. 適合機種

本基板は、下記の機種で、実装して動作確認が取れています。

※1D(CZ-802C) ←未確認

X1G model30(CZ-822CB) (\*1)

X1F model20(CZ-812CE)

X1turbo II (CZ-856CB)

X1turboZ(CZ-880CB)

X1turboZ(CZ-880CE)

X1turboZⅢ(CZ-888C-BK)

(\*1)

所持している X1G model30(CZ-822CB)では、「X1G 専用セット」を使用しても、コントローラーモードは動作しませんでした。

(起動ドライブの切り替えは問題なく動作します)

## 6. その他

<最新の FDS 説明書>

Twitter にて随時呟きます。

[https://twitter.com/otoka\\_j](https://twitter.com/otoka_j)

WEB サイト

<http://www.michaels-home.com/>

## 7. 取り付け方法

以下に、X1G model30(CZ-822CB)をベースに取り付け方法を記載します。

(注意)

ネジを外す箇所が多いため、必ず、後で外したネジの場所が分かるように置いて下さい。

1. 赤丸部分のネジを外し、X1 本体のカバー、後部パネル、I/O SLOT のパネルを取り外します。

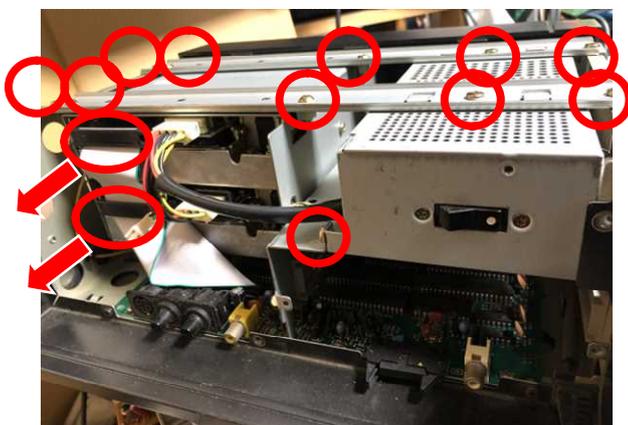




2. 取り付ける予定の I/O SLOT 1 or 2 のパネルも外します。  
写真は SLOT1 側です。



3. 内蔵 FDD に接続されている 34pin エッジコネクタを外します。  
電源ボックスや内蔵 FDD を支えている写真の赤丸部分のネジも外しておきます。



4. I/O スロットに差し込む**付属品 No.1「FDS 基板」**に、**付属品 No.5「ジャンパー基板」**をセットします。



付属品 No.2「FDS - 内蔵 FDD 間フラットケーブル」、付属品 No.3「X1 本体 - FDS 間フラットケーブル」を取り付けます。

エッジコネクタの方向に注意して取り付けてください。（逆刺し防止はありません）

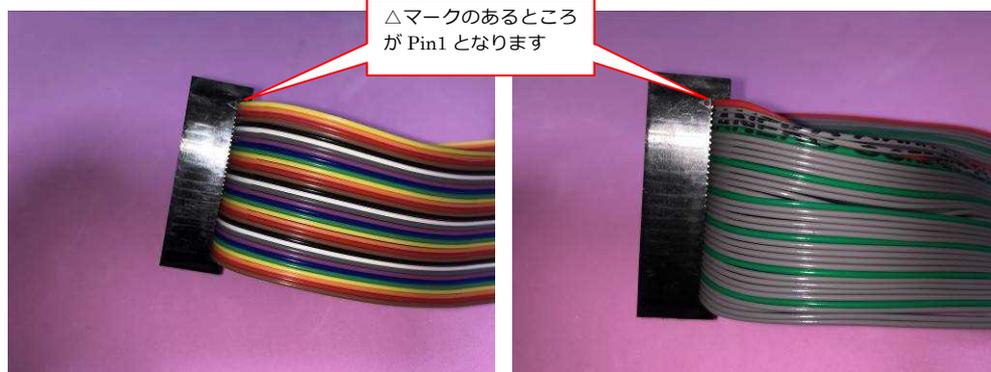
写真では、取り付けられたフラットケーブルの赤い線（Pin1）が上側になります。

→エッジコネクタ基板側の切込みがある方向と、

フラットケーブルの赤い線(Pin1)のある方向を合わせます。



付属品のフラットケーブルの種類によっては、赤い線（Pin1）が無い場合、以下の方法でPin1 の場所を確認して下さい。



5. I/O スロットに FDS 基板を差し込み、電源ボックスを持ち上げて、横の隙間からフラットケーブルが外に出るようにします。

電源ボックスは、忘れないうちにネジで固定しておいてください。



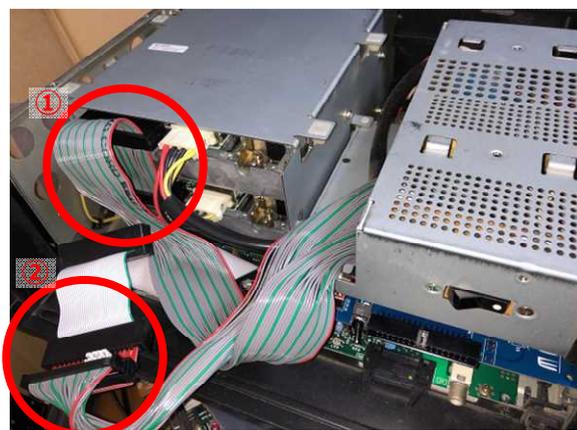
6. 付属品 No.2「FDS - 内蔵 FDD 間フラットケーブル」を、写真のように内蔵 FDD のカードエッジ部分に取り付けます。(写真 赤丸①)

付属品 No.3「X1 本体 - FDS 間フラットケーブル」の先端に、付属品 No.4「34PIN エッジコネクタ基板」をセットし、内蔵 FDD に接続されていたカードエッジメスコネクタに差し込みます。  
(写真 赤丸②)

エッジコネクタの方向に注意して取り付けてください。(逆刺し防止はありません)

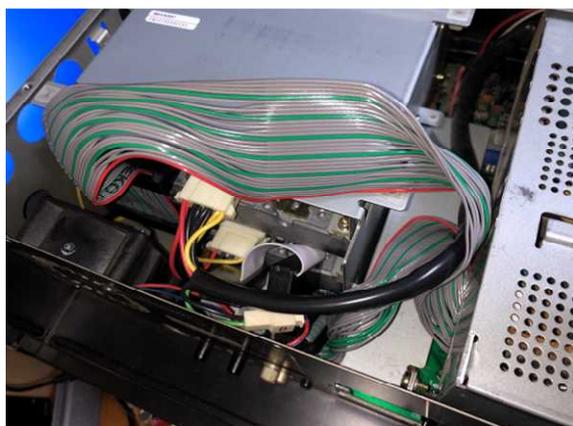
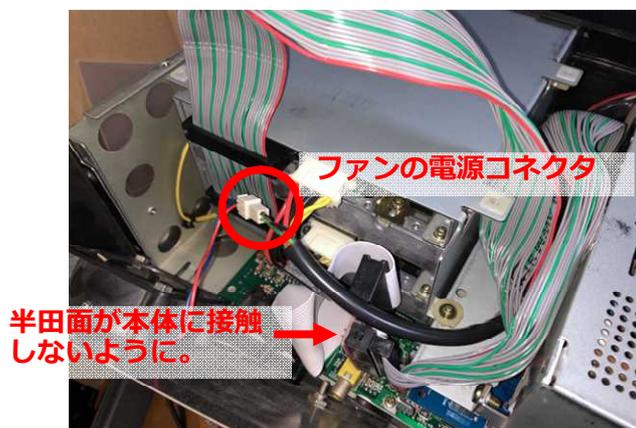
写真では、取り付けたフラットケーブルの赤い線 (Pin1) が内側 (写真上では右側) になります。

→エッジコネクタ基板側の切込みがある方向と、フラットケーブルの赤い線(Pin1)のある方向を合わせます。



7. カードエッジ基板の半田面が本体に接触しないように、後部パネルを取り付けて下さい。  
後部パネルに固定されているファンの電源コネクタの接続も忘れないようにして下さい。

ファンの回転が妨げられないように、ファンのある所にケーブル類が掛からないようにして下さい。



8. 【動作確認】この時点で、外部 FDD からの起動を確認します。  
付属品 No.7「FDS - FDD 間フラットケーブル」を使用して、FDS の 34pin のソケットと、FDD エミュレータ (FDX68/HxC/Gotek など) を接続します。  
FDD エミュレータにて、起動させるソフトを選択して置きます。  
トグルスイッチを写真右側に倒した後、PC 本体の電源を ON して、FDD エミュレータより起動します。



9. 【動作確認】内蔵 FDD からの起動を確認します。  
内蔵 FDD に、起動させるソフトのフロッピーディスクをセットして置きます。  
トグルスイッチを写真左側に倒した後、PC 本体の電源を ON して、内蔵 FDD より起動します。



10. 【動作確認 (FDS+の場合のみ)】FDX68 をご使用の方は、FDX68 のコントローラーモードも確認しておくのが良いと思います。(製作者所有の X1G では動作しませんでした)  
FDS+の写真手前側に、UP/DOWN のスイッチがあります。  
UP ... エミュレーターモード (外部 FDD として使用する場合)  
DOWN ... コントローラーモード (内蔵 FDD に挿入したフロッピーディスクを  
ダンプしたりリストアしたりする場合)

